



七色のかがやき

長崎市立虹が丘小学校 学校便りNo. 6
 令和6年 7月 1日(月)
 編集・発行責任者 校長 池田敏典
 E-mail e52nagasaki-city.ed.jp
 G-mail nijigaoka@gmail.com

「天花粉の思い出」

“夏は夜 月のころはさらなり”とは、「枕草子」の一節です。月といえば、秋の季語ですが、秋の月が〈美しさ〉の対象であるのに対し、昔の人が夏の月に見出したのは《涼しさ》のようです。夏の夜空から涼の風情を感じていたのでしょうか。

いよいよ7月に入りました。梅雨明けはまだのようですが、本格的な夏がもうすぐやってきます。夜の月と同様、縁側やベランダでの夕涼みも待ち遠しくなりますね（でも、クーラーが効いた部屋が一番でしょうか）。

私が幼い頃、お風呂で汗を流した後、よく天花粉をつけてもらったものです。甘い香りとともに、汗を吸い取ってくれる白い粉が、子ども心に何とも良い心地だったことが思い出されます。

今になって思えば、こんな小さな日常の中にも、子どもの汗疹を気遣う親の心が表れていたことに気付かされます。

毎日の生活の中で育まれる子どもの成長には、御家庭での温かい支援や声掛け、地域の皆様の協力が欠かせません。子どもたちも、自分の言葉に耳を傾けてもらったことや励ましの言葉をかけてもらったことなどが、いつか、天花粉のように懐かしく思い出されることと思います。

さて、先週の『長崎っ子(虹っ子)の心を見つめる教育週間』では、保護者の皆様、地域の皆様に御来校いただき、子どもたちに温かい眼差しを届けていただきました。子どもたちはきっと、家族や地域の皆様に守られていることを実感し、家族のこと、地域のことがますます大好きになったものと思います。御多用の中、ありがとうございました。これからも、お気軽に御来校いただきますことをお待ちしております。



「季節の情趣」

最近に限ったことではありませんが、子どもたちについて、SNS等による問題、生活習慣の乱れなど、よく教育的課題として挙げられます。さらには、人を思いやる心、人権を尊重する心、美しいものや自然に感動する心などもそうでしょうか。

子どもたちに指摘される問題には、様々な背景が考えられます。例えば、世の中の物質的な豊かさを求め過ぎる風潮、時間に追いかけられ、精神的にもゆとりのない生活、子どもの成育環境の変化などです。

ここで忘れてはならないのは、問題が指摘される子どもたちの姿は、実は私たち大人社会がつくり出したものであるということです。子どもたちが…と言う前に、まず、私たち大人が責任をとらなければと思うわけです。子どもたちを指導する立場にあるすべての大人が考えを変えない限り、子どもたちだけに変わることを求めても何の変容も期待できないでしょう。

バスや電車の中でよく見かける光景として、ほとんどの人がスマホをいじっている姿があります。もしかすると、食事中もスマホから目を離せない人もいるのかもしれませんが。夜の時間はいかがでしょう。遅い時間までSNSや動画に見入り、朝の目覚めが悪いという人もいます。



ICTの時代だからこそ、これからの教育では、子どもたちに豊かな人間性を育むことが、より一層大切になってくるように感じています。

その一つとして、日本には、四季折々の豊かな情趣、そして、そのことを歌や詩、俳句などで歌い上げる文化があります。私たち大人が、自然や

文化の良さに関心をもつことで、子どもたちも四季の移り変わりや風物に目を向けるようになるのではないのでしょうか。日々の生活の中で、四季折々の自然や風物について子どもたちに語りかけていく、そんな心の余裕をつくりたいものです。そして、自然の美しさを感じ取れる心豊かな子どもたちを育てていかなければと思います。



お知らせ

本日予定されていた《100人パトロール》は、天候不良のため、来週の月曜日(8日)に延期となりました。Tetoruで配信しておりますので、御確認ください。